

様式1(主な取組)

活動指標名	看護師国家試験合格率				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	97.30%	97.40%	98.72%	98.80%	100%	100%	100.0%	271,121	順調	活動概要 国試対策指導者セミナーへ教員2名が参加した。国試対策講座を2回行った。学生の学習室を確保し、ヒーター・加湿器の借用や調理室にレンジやポットの設置、教職員から差し入れを準備する等の環境整備を行った。学生の学業状況を把握し、模試の結果に応じて個別面談を行った。
活動指標名					H29年度					
実績値										
活動指標名					H29年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度 of 取組改善案						反映状況				
①国家試験担当教員を研修へ派遣することで、質の向上を図る。 ②成績不良者に対して4年次の早い段階から面談を実施し、個別の対策を行う。 ③ 国家試験対策として、臨床での実践及びアセスメント力を問う学内模試の実施と、学内外の模試を参考に、苦手科目に重点を置いた特別講座を実施する。						①県外の国試対策指導者セミナーに教員2名を受講させ、要点を教員と学生に報告し情報共有した。 ②模試結果が不良の学生については、個別に面談をしながら学習状況を確認し改善点をアドバイスした。 ③各領域に依頼し、国試対策講座(夏期・冬期)を行った。夏期:8/8~14(計14コマ)出席率80%、冬期:1/4~16(計8コマ)出席率79%				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

○外部環境の変化

・平成28年度から看護師国家試験の出題傾向が変わり、臨床でのより実践的な問題が増加している。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・教員研修等により早期に国家試験の出題傾向を把握し、学生へ指導していく必要がある。

・合格の可否が卒業後の進路に影響するため、教員の質の向上や、4年次学生への特別講座の実施、早い時期からの面談等による対策指導など、さらなる取組みが必要である。

・4年次の段階では、成績不良者には早い段階から面談し、意識付けを行っているが、12月までは講義・実習・卒論で試験勉強に集中することが難しい状況のため、効果的な勉強法など早めに個別の対策を考える必要がある。1～3年次についても、国家試験について情報提供を行い、学生に早めに関心を持たせる取り組みも全教員で行う必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・学生のモチベーションを上げる目的で、3年次の時期に就職説明会を行っているが、その中で「卒業生からのメッセージ」で国試対策についての体験談を報告してもらい参考にさせる。

・1～3年次については、専門科目の講義で国家試験問題を解くなどの意識付けをしていく。

・3, 4年次交流会において、直接4年次から国試対策の体験談を聞いて勉強するきっかけを作ってもらう。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ウ	優れた人材を育み地域の発展に寄与する高等教育の推進	施策	①大学等の教育研究環境の充実及び地域貢献活動の促進	
			施策の小項目名	○地域貢献活動等の促進	
主な取組	県立看護大学における地域貢献			実施計画記載頁	399
対応する主な課題	②また、大学等の社会貢献が求められる中、大学等が持つインフラや生み出した優れた研究成果等を県民生活の向上やものづくり産業振興に結びつけるなど、高等教育機関と産業界や地域等が連携し、地域社会への還元につながる取組を促進する必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
県立看護大学における地域貢献として、一般県民を対象とした出前講座、公開講座、離島講座等を実施し、地域社会へ還元する。						
実施主体	県	一般県民を対象とした出前講座、公開講座、離島講座等の実施				
担当部課【連絡先】	保健医療部保健医療総務課 【098-866-2169】					

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 看護大学運営費							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	直接実施	-	-	-	-	58	219	県単等	○H29年度: 出前講座13回、公開講座15回、離島講座0回を実施した。 ○H30年度: 出前講座14回、公開講座15回、離島講座1回を実施する。
予算事業名							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									○H29年度: ○H30年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	一般県民を対象とした出前講座、公開講座、離島講座等の実施				H29年度			H29年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	25回	28回	30回	93.3%	58	順調	<p>本学では、高齢者向けの「もしもの時の向き合い方のゲーム体験」や中学生向け「性教育出前講座」、市の乳幼児教室等での講師等様々な世代を対象とした講座を開催、又は参加をしている。その他、アルコール家族教室やいのちの電話相談員養成、その活動PR等を行うことで、県民の保健福祉に貢献している。</p>
活動指標名					H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度 of 取組改善案						反映状況				
<p>①平成28年度までの取組内容「図書館の学外利用者数の増加」を、平成29年度から、県立大学の地域貢献として、より適切な「一般県民を対象とした出前講座、公開講座、離島講座等の実施」に変更した。本学教員が研究を深めていくことで、出前講座等の内容も更に充実し、県民の健康づくり等地域貢献が広がると考える。</p>						<p>①本学教員の研究成果を、28回の講座を通して還元することで、のべ900名近い参加者を数え(ラジオ講座を除く)、県民や地域住民の健康づくり等に貢献することができた。毎年、この取組を継続していくことにより県民の健康福祉に関する啓蒙に繋がっていくと考える。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・本学教職員の本務である授業や研究が多忙であり、常に時間的な制約がある中で実施しているため、外部からの講座開催・講義依頼等に全て応えることは困難である。

○外部環境の変化

・県民の健康福祉への意識も様々であり、また意識の変化もあることからそのニーズを把握することが必要である。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・県民のニーズや開催時期等を把握することにより、県民が求める講座を開催できると考える。
・広報に工夫して、県民の参加者を増やす必要がある。



4 取組の改善案(Action)

・県の広報媒体や本学のHPを活用し、講座等の周知を図り、県民の参加を増やしていく。
・講座等開催時にアンケートを実施し、県民ニーズの把握に努める。